

林業と他産業との連携事例

林野庁経営課

目次

- 1 (有)須江林産(長野県佐久市)
(有)トッピーバー(長野県北佐久郡御代田町).....1
- 2 (株)やまとわ(長野県伊那市).....3

基本情報

(有)須江林産

【設立】
2001年4月

【事業内容】

立木買取・間伐・保育・
特殊伐採工事・山林調査&
コンサルタント業務・椎
茸栽培・ストーブ用薪販
売・社有林整備 等



(有)トッピーバー

【設立】
2000年5月

【事業内容】

大規模経営農家育成支援
事業 野菜の生産・販売
新規就農者の育成（独立、
こせがれ、法人就農者育
成）



連携の経緯

お互いに接点がまったくない中、近くで仕事をして
いたことから偶然出会い、世間話から林業と農業の課
題の話題となりました。

そして、林業は担い手不足、農業は雇用の安定化と
いうそれぞれの課題の解決策として、植付作業を請負
で農業従事者が行うという、今回の連携のアイデアが
生まれ、令和5年より事業を開始しました。

活動内容

●農業の担い手が林業の担い手に 双方にメリット

令和5年、地域の林業を担う須江林産と、地域の野菜の
生産・販売等地域の農業を担うトッピーバーが、冬場の農
閑期にトッピーバーの社員が植付作業を行う事業契約を締
結しました。

林業における労働力の確保は地域の林業をとりまく課題
であり、今回の契約締結は須江林産にとって貴重な労働力
の確保になるとともに、これまで植付に充ててきた時間を
素材生産に充てることで、素材生産量が増加することが見
込めます。

また、トッピーバーにとっても、農閑期の12～3月の業
務確保が以前より課題となっており、この時期に林業に従
事することで、通年雇用による雇用安定化が図れます。



●安全を考慮して作業は植付に限定

令和5年度は、カラマツ4.8万本（約21ha）を植付しまし
た。契約金は一日あたり何本植えたかの出来高制で決めて
います。これは作業ノルマを決めないことで、より安全に
作業できると考えたからです。

また、林業の各種作業の中で植付作業を選択したのも、
林業の各作業の中で比較的安全に作業が可能と考えたから
であり、実施に当たっては須江林産の指導を受けるととも
に、トッピーバーは7人体制のシフト勤務により無理のない
体制で実施しています。



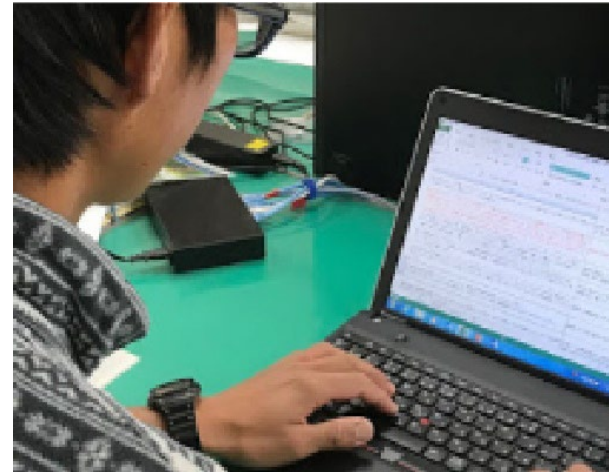
今後の展望

須江林産にとっては、冬にトッピーバーに植付を実施してもらうサイクルができれば、素
材生産量の増加が見込まれること、トッピーバーにとっては、今回の連携により季節労働者
3名を通年雇用化できるようになり、雇用の安定化が期待できることから、今後も本事業を
継続的に実施することに意欲的です。

林業（須江林産）の事業内容

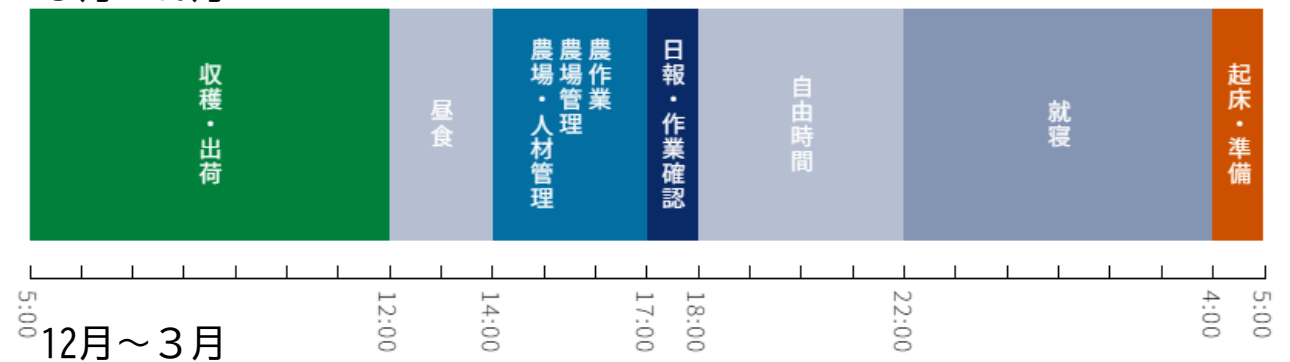
12人体制で、森林調査、造林（植付、下刈、除伐、枝打ち、間伐等）を実施するとともに、立木買取、危険木等の特殊伐採、集約化の提案、ストーブ薪の販売など多岐に渡る業務を行っています。

「環境」「人権・育成」「社会貢献」を活動理念に、森林整備の分野で適切な森林管理を実施しています。森林経営計画森林より生産された資源は合法木材として全国に流通させ、林地残材(未利用材)についても再生可能エネルギーへの有効利用や薪として販売をしています。また、ゼロカーボンの実現に向け伐採後は計画的に植林をして若い森林へと更新していくことで資源の循環利用ができる森林づくりを行っています。

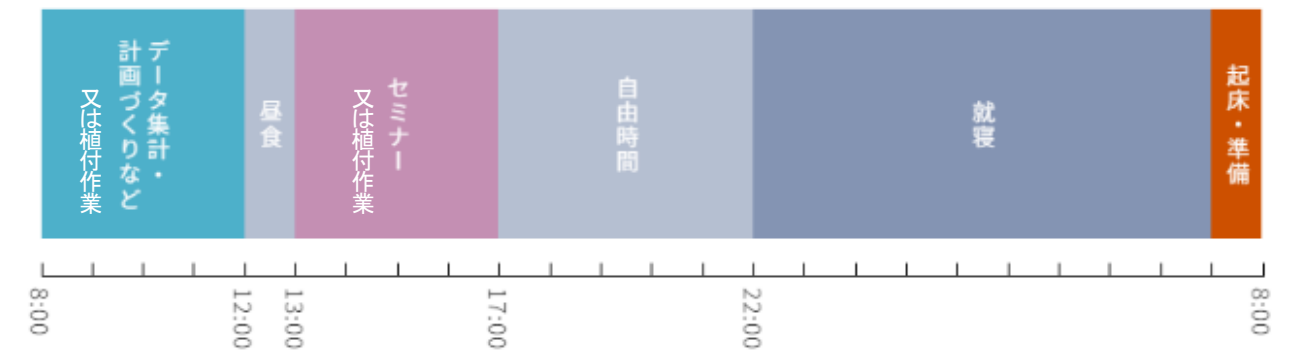


トップリバー社員の1日の仕事内容

3月～10月



12月～3月



農業（トップリバー）の事業内容

野菜の仕入れ、販売などを行う「商品部」、農作業を行う「営農部」、野菜の品質管理などを行う「業務推進部」など、多岐に渡る業務があります。

また、独自のキャリアアップシステムやセミナー・研修、資格取得支援などのスキルアップ支援制度を整備し、独立に向けて農作業や経営の能力を鍛え上げることができます。

農業の12月～3月はオフシーズンであり、データ集計や取りまとめ、次年度生産に向けた計画作成など、各々のレベルにあった研修を実施しますが、今回の事業連携により、須江林産の請負事業として植付作業も行います。

基本情報



【設立】
2016年10月

【事業内容】
農業、林業、地域の木を使った家具づくり、家づくり、人材育成 等

林業参入の経緯

会社設立前はモノづくりが最初にありました。2000年代後半から伊那谷産の木材を使った家具製作をビジネスにしていたが、経営的には難しい状況でした。

その後、現在の会社のメンバーが会う中で、複合経営に可能性を見出し、農業と林業どちらもやろうと考えました。

1年目は家具製作が中心でしたが、素材生産から暮らしのところまでつなげて提案していくことで、家具そのものの価値も上がり、新しい価値の創造ができるのではないかと考えました。さらに、今は住宅や薪ストーブも視野に入れて取り組んでいます。

林業や環境教育の授業などを通して地域の方々との交流も生まれます。地域の信頼づくりも複合経営の良さであると感じています。

活動内容

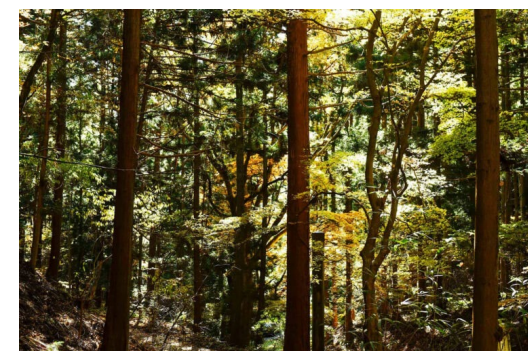
●農×林 森をつくる暮らしをつくる

「森をつくる暮らしをつくる」を経営理念に、自然豊かな伊那谷で、夏は農業、冬は林業を営み、地域の木を使った家具づくりや家づくり、伊那市との官民連携での担い手の育成など、多岐に渡って、豊かなくらしづくりを通した豊かな森づくりに取り組んでいます。



●森に関わるトータルデザイン

社内に木こりから、フォレスター（森林総合監理士）、家具職人、デザイナーにディレクターまでさまざまなメンバーがおり、こうしたメンバーで、森の課題を解決するために森林調査からコンセプトづくり、基本計画、商品開発やサービスづくり、ブランディング、PRなどなどトータルで行っています。



●担い手の育成

やまとわでは、森づくりを基礎からまなぶ森林塾を開催しています。2019年までは、KOA森林塾として定期開催していましたが、現在はオーダーメイド型での塾を開催しています。

また、伊那市と協働で森の価値を再発見・再編集する実践型スクール「伊那谷フォレストカレッジ」では、森や地域をフィールドに、プロジェクトチーム型のワークショップ、レクチャー、トークセッションなどを通して、森・地域の新たな価値を生み出すことを目指しています。フィールドやテーマはチームによって様々で、林業経営を考えるチームがあれば、ものづくり、観光や教育などのサービスを創造するチームもあります。



今後の展望

常に新しい事業展開を考えており、今は信州大学と連携し、きのこ生産により広葉樹林に付加価値をつけることなどいろいろな可能性を探っています。

また、海外展開も考えています。モノの輸出に加え、日本国内のスキームを販売できないか、あるいは逆に海外から輸入できないか、「一次産業のグローバルな面白さを生み出していきたい」と模索しています。

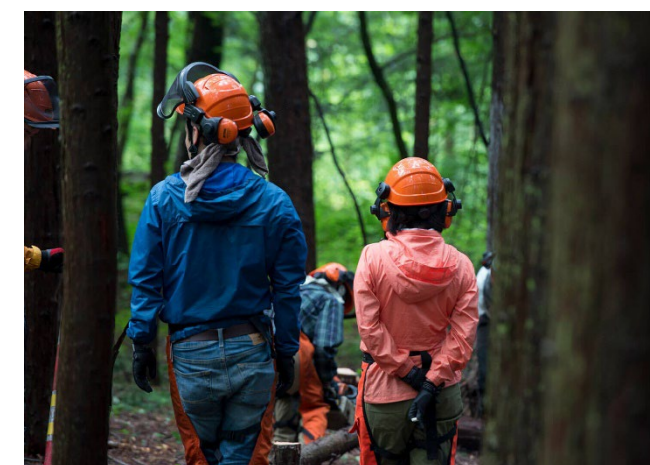
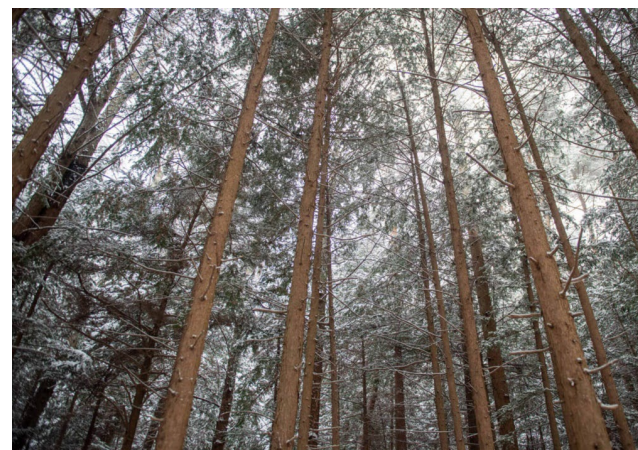
林業の事業内容

山林経営を中心に行っており、素材生産も行っていますが、やまとわでは、生産量を多く出すことを第1の目的にしているわけではありません。

山林全体が素材生産に向いているわけではなく、全体でどのように位置づけるかの調査を行い、現在は、長期スパンの良い山へ実行に移していく段階に入っています。

素材生産以外は広葉樹林に戻したり、傾斜の緩いところはイベントで間伐体験を行い、見晴らしの良いところはツリークライミングするなど、山林全体を活かす取り組みをしています。

林業事業体として森全体の価値を考えることの難しさを感じる一方、面白い展開ができると感じています。



農業の事業内容

中央アルプスから天竜川にかけて広がる広大な扇状地。山から流れる雪どけ水。自然豊かな伊那谷は、農業が盛んな地域です。この場所で、自然と調和する農業をしています。

約0.5haほどの農地で、スイートコーンを中心に6品目ほどの作付けをしています。スイートコーンは生鮮販売が販売力が強い一方、常に収穫して販売しなくてはならないので、複合経営をしているやまとわにとってはひととき大変です。

業務時間内のできる農業を考え、加工食品として販売することに行きつき、ルッコラを使用したジェノベーゼソースの開発など、食のブランドを展開しています。